

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24651274

研究課題名(和文) 東アジアにおける越境的社会圏の可能性と課題

研究課題名(英文) The possibilities and challenges of cross-border social sphere in East Asia

研究代表者

山崎 健 (Takeshi, Yamazaki)

神戸大学・人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：20158132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究プロジェクトは、二年間、東アジアにおける越境的社会圏の可能性と課題にかんする学際的な検討を行なった。代表的な成果は以下の通りである。1. 東南アジア地域における社会制度構築、民主主義の定着等について新しいアソシエーションの動向と展開を検討した。2. 社会思想史研究を通じて、東アジアの越境的社会圏を構想する上で障害となる排他的ナショナリズムへの批判的考察を、より広い文脈から行なう可能性を提示した。3. 中国残留日本人孤児の国籍・戸籍とその変遷の考察を通じて、ポスト・コロニアルの東アジアにおける歴史的な社会変動が、残留孤児の永住帰国・肉親探し・国籍認定に大きな障害をもたらしたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research project was carried out with the interdisciplinary study on the possibilities and challenges of cross-border social sphere in East Asia. Representative results are as follows. 1. We investigated the deployment of new trends and association of social institution-building in Southeast Asia. 2. Through 2. Social intellectual history research, we presented the possibility to do from a wider context, the critical consideration to the exclusive nationalism which is an obstacle to plan cross-border social sphere of East Asia. 3. Through a discussion of the transition and nationality, family register of Japanese orphans left behind in China, we explained historical social changes in East Asia in the post-colonial, resulted in a major obstacle to certification nationality or permanent return home, looking for immediate family of orphans.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：cross-border

1. 研究開始当初の背景

ポスト・コロニアルの20世紀中葉以降、欧米は多国籍企業化と移民労働力の導入を梃子として、高度経済成長を遂げてきた。そこでは、グローバリゼーション・新自由主義の中核としてのアメリカ、およびこれに対抗する準中核としてのEUの間で一定の種差を孕みつつ、しかし総じて多元性・市民社会・人権・福祉・環境等の価値を重視するポスト・フォーディズムといわれる社会圏が構築されてきた。これに対し、東アジアは戦後、一貫して「世界の工場」として、また国内農村労働力を都市部に流動化・集中させることによって高度経済成長を遂げてきた。1955年以降の日本の高度経済成長、1970年代以降のNIES・ASEANの飛躍、1990年代以降に本格化した中国の改革開放は、いずれもその具体的発現形態といえる。総じて東アジアは、その圏域内部で拠点を次々と移動させつつ、しかし一貫して輸出主導の製造業を基盤として、しかも低賃金労働力の供給源であることを活かして、「発展」を追い求めてきたのである。こうした東アジア社会圏の特質や変化は、欧米の単なる「後追い」ではない。そこには世界システムの中で東アジアが担ってきた独自の位置に由来する固有性が刻印されている。そこで欧米のスタンダードからすれば、ナショナリズムや伝統の残滓、市民社会の未成熟、人権・福祉・環境への無関心、都市と農村の隔絶した格差、それらを背景とした排除や差別等が広範にみられる。しかしオリエンタリズムを批判する立場から、こうした世界システム内部での固有の位置をふまえた東アジア社会を貫く特質と価値—特に共生と排除をめぐるそれ—については、従来、ほとんど解明されていない。越境的社会圏への学際的アプローチ 東アジアにおいても、越境的社会圏は着々と形成されつつある。東アジア共同体の実現は未知数としても、東アジア社会を越境的に語る概念と理念の「発明」は、近い将来、

世界の社会科学にとって重要な課題になることは間違いない。本研究は、経済学・政治学・社会学・開発学・地理学・社会政策学の専門家が結集し、上記の研究課題に挑戦する。東アジアにおける多様な共生と排除に焦点を当て、しかもそれらを個々バラバラにではなく、その基底を貫く共通の地域的諸特質を浮き彫りにすることこそ、本研究の主眼である。

2. 研究の目的

東アジア共同体に関する議論は政治経済界で先行している。本研究は、多様な制度文化背景を持つ東アジアが一つの越境的社会圏を構築する可能性と課題を学術的に検討することを目的とする。東アジアで生じている共生と排除の営みは、欧米や西アジアなどとは明らかに異なる地域的個性を有する。本研究は、オリエンタリズムに対する批判的視点を東アジアの実態的把握と結合し、その地域的固有性を解明する。

3. 研究の方法

本研究は、目的を達成するため、次の4つのチームを編成して研究を推進する。いずれも、個々の国家的特質、およびそれらの比較にとどまらず、東アジアの越境的社会圏を通底する共生と排除の把握という明確な観点から研究を推進する。

(a) 東アジア社会圏における政治と安全保障 (チームリーダー：和田 進)

(b) 東アジア社会圏における経済開発と空間的格差 (チームリーダー：山崎 健)

(c) 東アジア社会圏における労働・福祉と公共性 (チームリーダー：岩佐卓也)

(d) 東アジア社会圏をめぐる歴史認識と理念 (チームリーダー：橋本直人)

4. 研究成果

代表的な成果は以下の通りである。(1) 東南アジア地域における社会制度構築、民主主

義の定着等について新しいアソシエーションの動向と展開を検討した。(2).社会思想史研究を通じて、東アジアの越境的社会圏を構想する上で障害となる排他的ナショナリズムへの批判的考察を、より広い文脈から行なう可能性を提示した。(3).中国残留日本人孤児の国籍・戸籍とその変遷の考察を通じて、ポスト・コロニアルの東アジアにおける歴史的社會変動が、残留孤児の永住帰国・肉親探し・国籍認定に大きな障害をもたらしたことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

太田和宏(2013)「東南アジアにおけるアソシエーションと越境的デモクラシーの可能性」(松下冽・山根健至編著『共鳴するガヴァナンス空間の現実と課題「人間の安全保障」から考える』晃洋書房 2013 pp.154-171. 査読なし)

Kazuhiro Ota (2013) Global Tradition Complex Labor Regulation Regime of the Philippine State, a paper submitted to the 8th International Convention of Asian Scholars, Macao, China pp. July 2013, 1-10. 査読なし

太田和宏, 正木奈保, 青木沙和子, 小川かがり, 小林由紀, 竹内麻里, 中村優花, 村上遼介, 溝口純二, 毛利優介, 佐藤祐子, 國光智子, 松村亮佑(2013)「マイクロファイナンスによる生活の安定 - フィリピン「南コタバト基金」の事例」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』第6巻2号、2013年3月、pp.141-50. 査読あり

SAWA Munenori(2013) Spatial Reorganisation of the Indian Community Crossing Border : A Case Study of the Global City Tokyo Japanese Journal of Human Geography, 65-6, 508-526, 2013, 査読あり

橋本直人(2013)「帝国主義のアポリアとその克服 『アドルノの継承者』としてのサイード読解の試み」『唯物論研究年誌』18号, pp.189-213, 査読あり

浅野慎一(2012)「民族開放・国民主権を超えて 世界システムと東アジア」『日中社会学研究』20巻, pp1-8, 査読あり

[学会発表](計1件)

澤宗則: グローバル化と空間の再編成 - 脱領域化と再領域化の両義性
2013年度 HINDAS 第1回研究集会 2013年6月15日 広島大学

[図書](計3件)

Yan Tong & Shinichi Asano Blood and country Japan's household registration system and citizenship David Chapman and Karl Jacob Krogness ed. Routledge, 2014, pp. 127-144

澤宗則・中條曉仁
新興山岳観光地の社会変動 ノークチアターの事例 岡橋秀典編「現代インドにおける地方の発展ーウッタラーカンド州の挑戦」海青社 2014年3月, pp.185-206

澤宗則 都市農村格差と大都市近郊農村 友澤和夫編「世界地誌シリーズ 5 インド」pp.101-112 朝倉書店 2013年

6. 研究組織

研究代表者

山崎健 (Ken Yamazaki)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：20158132

研究分担者

太田 和宏 (Kazuhiro Ota)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：00273748

岡田 章宏 (Akihiro Okada)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：70185429

岩佐 卓也 (Takuya Iwasa)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：00346230

和田 進 (Susumu Wada)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・名誉教授

研究者番号：30116272

浅野 慎一 (Shinichi Asano)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：40202593

澤 宗則 (Munenori Sawa)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：40235453

橋本 直人 (Naoto Hashimoto)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：80324896